

琉球大学学術リポジトリ

ヒカンザクラ 種子の発芽促進

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 仲宗根, 平男, 岸本, 文男, Nakasone, Hirao メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/21248



ヒカンザクラ 種子の発芽促進

1. ま え が き

桜の花も散り、サクランボが実る季節となった。花期が短かいように実の熟し方も早く、地方によっては種子採取もすんで、播種された方々も多いと思う。サクラ属の種子は硬く、一般的方法では約1年目の翌春3月頃に発芽するのが普通である。その間除草、灌水などの手入れ不足となれば全滅させ、その努力を無にすることが度々である。筆者達は簡易な方法により、発芽促進実験を行ない、幾分かの成果を得たので、サクラ愛好者へ参考に供したい。

2. ヒカンザクラ (*Prunus campanulate maxim*) について

緋寒桜、または寒緋桜は、国頭、久米島、八重山に自生し、殊に石垣市吉原の群落は天然記念物に指定されている。天然分布は沖縄から台湾、ヒマラヤにまで生育しているといわれているが、近年栽培が容易のため、那覇、中南部地区において

も、見事な開花をし、庭園木、公園樹、街路樹として用いられている。沖縄在来のサクラはこれのみで、1月下旬より2月中旬頃に紅色、淡紅色の花を一せいに開き、1週間位で落下する。花後だ円形の核果を結び、長さ1cm内外の大きさとなる。熟して紅色後暗紫色になり落下する。果肉を除いた種子は長さ7~8mmで硬く、中に胚、子葉を内蔵している。

3. 実験試料、実験方法

昨年4月中旬琉大与那演習林において採集した種子2ℓを用いた。

(実験1)

5月30日実験開始、種子を水洗、蔭干しにて乾燥させ、ビニール袋へ500粒あて詰め、家庭用冷蔵庫の下段(6~8°C)に1週間から5週間低温処理を行なった。処理済みの試料は、発芽状況観察のため発芽皿へ入れたが、1ヶ月後屋外の植木鉢へ播種し、時々灌水を行なった。6月以降1



処理3週間の発芽状況



処理4週間の発芽状況



3. 処理5週間の発芽状況

本の発芽もなく、10月上旬から発芽し始め、10月中に発芽終了した。引続き寒風をさけるため室内に置き、時々灌水を行なって、本年3月始めに苗床へ15cm間隔で床替した。

その結果は次表の通りである。

処理期間	供試粒数	発芽本数	発芽率
1 週間	500	108本	20.2(%)
2 "	"	176	35.2
3 "	"	144	28.8
4 "	"	200	40.0
5 "	"	200	40.0

(実験Ⅱ)

前回使用残り種子(約1ℓ)を書棚に貯蔵し、即ち夏越しの種子を用いて、9月下旬より実験1の方法で行なった結果は、何づれも発芽率(0)であった。

4. ま と め

核果のような硬い発芽しにくい種子は、採集年内に発芽することなく、翌春3月頃に発芽する。その間の種子貯蔵、取扱い如何では、発芽力を失わない、全滅する。特に夏季の高温に弱いようで、実験Ⅰ、Ⅱに大差が生じている。

種子の発芽温度も高温(30°C前後)は不適當で、10月、3月頃の20°C前後が最適のようである。

今回の実験で、簡易な発芽促進が見い出され、育苗期間も短縮され、大量苗木養成の可能性が出てきたようである。

(仲宗根平男, 岸本文男)